

令和5年10月28日

講師：日本 IENREAL 研究会顧問 内田芳夫先生

<対象>

- ・言葉の発達がゆっくりな子ども達

<大人が守るべき会話の原則>

- 大人が子どもの発達レベルに合わせる。
- 大人は会話や遊びの主導権を子どもに持たせる
- 大人は子どもが始められるように待ち時間をとる
- 大人が子どものリズムに合わせる
- 大人は会話や遊びを共有しコミュニケーションを楽しむ

<基本的な考え方>

- ・環境との相互作用から自分で学ぶ
- ・生活・遊びを1つ1つ丁寧にする。たっぷりする。
※遊びは子どもの中に発達の最近接領域を創り出す。遊びは、あるはっきり定められた時間・空間の範囲で行われる。
↓
 - ・ヒントを出すと達成出来る
 - ・子供が1人で成し遂げられること（現在の発達水準）と大人や年長との共同で成し遂げられる事との間
- ・成功体験を大切にしている
- ・前言語的コミュニケーションが大切→大人のコミュニケーション感度を高める
子どもの発信を待ち、良い聞き手となること

<共感について>

共同注視・三項関係・社会的参照

→大人がどのように関わるか 再度返してあげることで強化される経験を一緒に作っていく

→物への意識ばかりでなく、人への意識を高める。

大好きな世界を一緒にやってみることで、人への存在に気付く

→共感と反感（問いかけ）のバランスが大切

→第二の共感の能力。完全に共感出来ない事を知っている。

→ミラーニューロン

もともとは模倣に影響。ただ動きを真似る時ではなく、何の為に動くか等の目的を予測し動きの前から働く。